

# 大杉谷の暮らしから

## 伝える せせらぎ会

大杉谷「せせらぎ会」は、地域の郷土料理を守っていること、地元のお母さんたちが集まってできたグループです。大杉谷自然学校の事務所がある大杉谷地域総合センターには、介護予防教室が併設されています。せせらぎ会は、大台町から教室に集まる方々の昼食と、大杉谷自然学校のキャンプ参加者の食事を任されています。この場を使って、食文化を伝えるために、習い覚えた郷土料理をいろいろ作ってきましたが、今では自然が変わり、材料になる山菜などの植物がなくなってしまったので、作りたくても作れないことが残念だと言います。



せせらぎ会のみなさん

紹介していただいたのは、豆まきの豆ご飯、いも餅。そして、こんにやくです。この日作った料理は、介護予防教室の昼食に提供されました。今では、なかなか作られなくなった料理を喜び、参加者の食が進みました。



豆ご飯・いも餅・こんにやく

## 体験する のびのびクラブ

大台町では、小学生が放課後に自然体験活動のできるプログラムを提供しています。大杉谷自然学校が4つの小学校を月に1回ずつ訪問し、観察会や自然体験ものづくりなどを指導しています。

### \*ブービー笛作り\*

昔の遊び道具は、簡単に自分の思い通りに操ることができませんでした。作ってもすぐに遊べるわけではなく、手直して、完成まで工夫を重ねました。道具も道具の使い方も身体の使い方、何度も何度も調整し、練習しました。様々な試行錯誤があつて、ようやく楽しく遊べるようになります。ところが、今の遊びは、練習も工夫もなしで、すぐに楽しさのピークが登場します。確かにボタンや操作などの慣れは必要かもしれませんが、しかし、創造する、思考する機会としては手作りの道具に勝るものはないのです。



形や吹き方の微調整をするよ。

ブービー笛作りの締めくくりは、みんなで一斉に「ブービー!!」と鳴らしてごあいさつ。

## 受け継ぐ しやくり漁

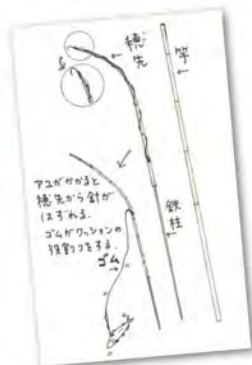
大杉谷自然学校では、しやくり名人から技を教えるもらう「しやくり漁体験」プログラムを実施しています。

しやくり漁は、竿先についた1本の針で鮎をひっかける(※方言では「しやく」と言います)漁法です。昔の子どもたちは、小学校低学年の頃から家族や地域のひとと共に川に出かけ、鮎を獲るために、見よう見まねで鮎の生態や行動、川環境、水中での鮎との駆け引きを習得しました。さらに漁具である竿や、水中を覗く道具である水眼(箱眼鏡)は手作ります。技術の他、道具作りも習得しながら、上達していったのです。



しやくり漁を継承する。

漁具の1つ、水眼(左上写真)をみてください。上部には「水切」と呼ばれる、水流を弱める木片が付いています。水流が強いところで使う水眼の木片はより高くなるなど、川の流れに合わせて高さを変えています。さらに竿を両手で扱う漁では、水眼を安定させるために下部の木枠を口でくわえます。ひと夏使うと噛みぬいてしまうほど使われ、ほとんどの水眼では二重に木が貼られています。そうして、昔の人々が丁寧に使い込んだ漁具は、その形状からダム建設前の宮川の激しい水流や、昔の人々がどれほど頻繁に川で漁をしていたのかを、今の私たちに伝えてくれています。



おしえて!名人!!